

秋の図書館を詠む

愛読書
ふと気がつけば
月明かり
遊 龜

五ページに
故郷の味
上海蟹
者 義

ひな里に
源氏のかほり
われもこう
日向雅

そよぐ風
十五夜の月
延延読書
Alcoholic

旅行本
しおりの代わりに
いちようの葉
ムスク

図書館に
人なきごとく
灯火親しむ
淳 駒

秋扇
手元の古書の
薫りたつ
多作 一景

錦秋の
本の森で
君に逢う
高 砂

古本も
真つ赤に染まる
秋の夕暮れ
座敷わらし

頼 珍 漢

筆休め
見違つた先に
秋桜
紫 卯

秋の雲
過ぎし日を記し
明日を読む
多 聞

素 人 俳 壇

虫の音に
心静めて
経を写す
欽 作

ひらひらと
開いた真に
落ちる紅
画

これらの俳句は本学園の学生・教職員の方々から投句いただいたものです。